



平成16年度動物衛生試験研究成績・計画検討会の概要

平成16年度動物衛生試験研究成績・計画検討会が平成17年1月5日～14日に開催され、平成16年度実施課題、平成17年度新規提案課題(所内プロジェクト研究課題を

含む)、平成16年度動物衛生研究成果情報候補課題についての検討が行われた。

(研究部等)	(開催日時)	(参加者数)	(検討課題数)
企画調整部	1月12日(水) 10:30～11:50	14名	4課題
疫学研究部(つくば)	1月5日(水) 13:00～17:00	27名	15課題
感染症研究部	1月6日(木) 9:00～17:00	35名	38課題
免疫研究部	1月7日(金) 13:00～17:00	21名	22課題
海外病研究部	1月13日(木) 13:30～17:00	13名	15課題
生産病研究部	1月7日(金) 9:00～12:00	20名	18課題
安全性研究部	1月12日(水) 13:00～17:00	22名	21課題
プリオン病研究センター	1月11日(火) 13:00～17:00	34名	28課題
生物学的製剤センター	1月12日(水) 9:00～10:30	16名	4課題
北海道支所	1月14日(金) 13:00～17:00	11名	14課題
九州支所	1月14日(金) 13:30～17:30	11名	13課題
七戸研究施設	1月13日(木) 13:30～17:00	8名	10課題

海外病研究部においては日本大学生物資源科学部三浦康男教授及び農林水産省動物医薬品検査所伊藤 治検査第一部長、九州支所においては鹿児島大学農学部高瀬公三教授及び宮崎大学農学部末吉益雄助教授、七戸研究施設においては北里大学獣医畜産学部中村政幸教授に助言

を頂いた。また、海外病研究部においては生物学的製剤センター長、北海道支所においては感染症研究部長及び生産病研究部長、九州支所においては生物学的製剤センター長、七戸研究施設においては疫学研究部長が本所より出席した。(研究企画科)

平成16年度第2回支所長会議の概要

平成16年度第2回支所長会議が平成17年2月17日(木)に当所大会議室において開催された。会議には所長、企画調整部長、総務部長、総合防疫研究官、各研究部長、各センター長、各支所長、七戸研究施設長、免疫研究部上席研究官、研究企画科長及び主任研究官、研究交流科長及び主任研究官、情報資料課長、衛生検査科長、実験動物管理科長、庶務課長及び課長補佐、会計課長及び課長補佐が出席した。その概要は以下の通りである。

1. 所長挨拶

清水所長より動物衛生を巡る現状、組織及び研究情勢の概要についての説明があった。

2. 総務部情勢報告

齊藤総務部長より管理運営部門のあり方、平成17年度

定員の合理化減、平成17年度予算の概要についての説明があり、質疑応答がなされた。

3. 企画調整部情勢報告

谷口企画調整部長より動物衛生研究所機関評価、平成17年度計画と連動する重点事項、平成16年度動物衛生試験研究推進会議、平成17年度新規プロジェクト研究、平成18年度プロジェクト研究課題案、産官学連携研究の推進についての説明があり、質疑応答がなされた。平成18年度プロジェクト研究課題案として、濱岡七戸研究施設長より「家畜の生産、出荷における衛生リスクの低減を目指した総合的家畜衛生管理技術体系の構築」、成田生産病研究部長より「乳牛における生産病の総合的防除のための早期診断法及び飼養管理技術の確立」、犬丸免疫研究部長より「動

物衛生分野における簡易・迅速な次世代診断法の開発」についての説明があった。

4. 平成16年度試験研究成績・計画検討会報告

各研究部、センター、支所、施設長より平成16年度試験研究成績・計画検討会の報告がなされた。

(研究企画科)

平成16年度動物衛生試験研究推進会議の概要

平成16年度動物衛生試験研究推進会議(本会議及び評価企画会議)が平成17年2月18日(金)に当所大会議室において開催された。参集者所属部局(人数)は以下の通りである。

茨城県畜産センター(評価委員1)、共立製薬株式会社先端技術開発センター(評価委員1)、日本養豚開業獣医師協会(2)、農林水産省農林水産技術会議事務局・研究開発企画官(1)・研究調査官(1)、農林水産省消費・安全局衛生管理課(1)、農林水産省経営局保険監理官室(2)、農林水産省動物検疫所(1)、農林水産省動物医薬品検査所(2)、農業・生物系特定産業技術研究機構(3)、中央農業総合研究センター(1)、畜産草地研究所(1)、東北農業研究センター(1)、近畿中国四国農業研究センター(1)、九州沖縄農業研究センター(1)、農業生物資源研究所(1)、農業環境技術研究所(1)、食品総合研究所(1)、国際農林水産業研究センター(1)、家畜改良センター(1)、肥飼料検査所(1)、北海道立畜産試験場(1)、栃木県県央家畜保健衛生所(2)、群馬県家畜衛生研究所(1)、岡山県家畜病性鑑定所(1)、島根県立家畜衛生研究所(1)、沖縄県家畜衛生試験場(2)、(社)農林水産先端技術産業振興センター・農林水産先端技術研究所(2)、動物衛生研究所(22)、以上58名。

本会議

清水所長、農林水産技術会議事務局の林研究開発企画官、消費・安全局衛生管理課の境薬事・飼料安全室長及び農業・生物系特定産業技術研究機構の小林副理事長からのあいさつが行われた後以下の議題について検討がなされた。

1. 動物衛生試験研究をめぐる情勢

谷口企画調整部長から、家畜疾病発生の動向、動物衛生研究の取り組み、特にプリオン病研究、高病原性鳥インフルエンザ等人獣共通感染症研究、口蹄疫・豚コレラ等国際重要疾病研究の取り組み、動物衛生研究に関連する科学技術施策、特に総合科学技術会議で策定される第 期科学技術基本計画、農林水産省で見直し作業が行われている「食料・農業・農村基本計画」、技術会議事務局で策定される「農業研究基本計画」に対応した研

究開発の取り組み、動物衛生問題解決に向けた重点推進研究、ついて説明があり、討議がなされた。

2. 動物衛生に係わる試験研究の重点課題と研究推進方向

各大課題担当研究部長より試験研究の重点課題と推進方向が提案され、討論がなされた。谷口企画調整部長から、平成16年度プロジェクト研究実施状況及び平成17年度新規プロジェクト研究実施予定課題についての説明がなされた。

3. 平成18年度プロジェクト研究における課題化に向けての取り組み

濱岡七戸研究施設長より「家畜の生産、出荷における衛生リスクの低減を目指した総合的家畜衛生管理技術体系の構築」、成田生産病研究部長より「乳牛における生産病の総合的防除のための早期診断法及び飼養管理技術の確立」、犬丸免疫研究部長より「動物衛生分野における簡易・迅速な次世代診断法の開発」についての説明があり、討議がなされた。

4. 動物衛生試験研究に係わる要望事項とその対応

農林水産省消費・安全局衛生管理課、群馬県家畜衛生研究所から提出された要望事項「生産現場での幼獣の下痢・肺炎の研究強化と施設環境改善を含めた対策の強化」、「牛ヨーネ病の早期・迅速診断法の実用化」に対し、動物衛生研究所企画調整部及び関係研究部長から対応方針が説明された。

評価企画会議

1. 平成16年度動物衛生試験研究主要研究成果の検討

平成16年度の主要研究成果として下記24課題が提案され、討議がなされた。

- 1) 蛍光染色試薬 carboxyfluorescein diacetate succinimidyl(CFDA) 及び同 succinimidyl estere(CFDA/SE)を用いたヨーネ菌の簡易生死判定と蛍光ラベル法
- 2) 発育不良子豚及びと畜場出荷豚由来 *Mycoplasma hyorhinis* のマクロライド系薬剤感受性と耐性機構の解明

- 3) *Streptococcus suis* が外来遺伝子をゲノムへ組み込むメカニズム
- 4) 分離宿主に関連した反芻獣病原細菌 *Histophilus somni* の遺伝的相違
- 5) 日本で発生した高病原性鳥インフルエンザ
- 6) 山羊関節炎・脳脊髄炎の診断法の確立と国内浸潤状況の調査
- 7) ブタ回虫粘膜接種ワクチン
- 8) 豚および牛インターロイキン-21の遺伝子クローニングと免疫増強活性を有する組換え蛋白質の作製
- 9) ブタインターロイキン(IL)-12受容体の構造解明とその発現調節を担う新規プロモーター領域の同定
- 10) イバラキウイルス感染血清のブルータンゲル内沈降反応における交叉反応と競合エライサの有用性
- 11) 組換え口蹄疫ウイルス非構造蛋白質を抗原とする口蹄疫抗体識別検査法
- 12) 非特異反応が少なく簡易迅速な口蹄疫中和抗体検出ELISA法の開発
- 13) 牛アポリポ蛋白質EのELISAの開発と血中動態および性状の解析
- 14) 新しい体外成熟培地POMを用いたブタ胚の体外生産
- 15) 殺虫性蛋白質Cry1Abのウシおよびブタの小腸上皮細胞への影響評価
- 16) 遺伝子組換えトウモロコシBt11の給餌はマウスの繁殖と生存性に影響しなかった
- 17) 異常プリオン蛋白質のコア領域のN末端の構造解析
- 18) 過去17年間に豚丹毒罹患豚から分離された豚丹毒菌株の性状解明
- 19) 小型ピロプラズマ病の貧血発生時におけるハイツ小体の生成
- 20) 馬腸管スピロヘータは盲腸上皮の過形成および大腸炎に関与する
- 21) *Actinobacillus pleuropneumoniae*のサルファ剤-ストレプトマイシン耐性プラスミドpMS260の塩基配列解析
- 22) 抗原シフトが認められたチュウザンウイルスの発見と解析
- 23) 日本に新たに侵入したアルボウイルス“Shamonda virus (シャモンダウイルス)”
- 24) 牛乳房炎由来黄色ブドウ球菌の疫学マーカーとしてのコアグラエゼ遺伝子型別の有用性

2. 総括

谷口企画調整部長により平成16年度動物衛生試験研究推進会議(本会議及び評価企画会議)の総括がなされた。
(研究企画科)

平成16年度動物衛生研究所評価委員会の概要

平成16年度動物衛生研究所評価委員会が平成17年3月15日(火)に当所大会議室において開催された。評価委員として有限会社アニマル・メディア社岩田寛史ピッグジャーナル編集長、北海道大学大学院獣医学研究科小沼操教授(評価委員長)、社団法人中央畜産会鎌田啓二常務理事、農林水産省消費・安全局栗本まさ子衛生管理課長、全国家畜衛生職員会木暮義雄会長、日本全業工業株式会社福井邦顕代表取締役社長を迎え、当所の一般業務及び研究活動の評価を受けた。また、厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所山本茂貴食品衛生管理部長から書類審査による

評価を受けた。独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構からは、岡村隆夫監事が出席した。当所からは、所長、企画調整部長、総務部長、総合防疫研究官、各研究部長、各センター長、各支所長、七戸研究施設長、研究企画科長及び主任研究官、研究交流科長、情報資料課長、衛生検査科長、実験動物管理科長、庶務課長、会計課長が出席した。議事録、評価結果とその対応については、平成16年度動物衛生研究所評価委員会報告として取りまとめられる予定である。
(研究企画科)